2020 年度

学生生活アンケート報告書

福山大学 学生委員会

目 次

はじめに 1

1. 学生生活アンケート調査の目的 1

2. 学生生活アンケート調査の項目 1

3. 学生生活アンケート調査の実施方法 1

4. アンケート集計方法 2

5. アンケート集計結果 2

A. 回答者の情報 2

B. 回答者の考え方と思い 3

C. 回答者の行動と活動 4

D. 回答者の経済状況 7

E. 回答者の時間の使い方 9

F. 回答者の健康と安全 12

G. 回答者の人間関係 15

H. 新型コロナ感染症の影響 16

I. 大学への要望 17

6. 集計結果について 18

おわりに 19

付録(Covid-19 の影響と大学への要望詳細)エラー! ブックマークが定義されていません。

はじめに

福山大学学生委員会では学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、平成 26 年度から学生生活全般に関する学生の意見・要望を把握するために、「アンケート調査」を実施し、キャンパス施設・交通手段・衛生面等に関する要望や意見を 2 年ごとに募っている。平成 30 年度には、施設・通学・衛生面だけでなく、学生生活の実態を把握して、学生生活支援のためのフィードバックができるように、学生生活を中心とした「2018 年度福山大学学生生活アンケート」を実施した。具体的には、学生生活全般に対する質問項目を中心に取り上げ、キャンパス施設・交通手段・衛生面等については、自由記述欄を設けて具体的な要望や意見を述べてもらうようにした。そして今回は、ほぼ前回のアンケートの形式に従いつつ、時代の変化に対応できるように質問項目を一部で修正した。特に、今年度は、新型コロナ感染症の影響に関する質問を新たに設けた。これらについては、学生委員会研究部門小委員会のメンバーが質問項目の案を作成し、学生委員会の審議・承認を受けたのちに、評議会からの助言も取り入れた形で「2020 年度学生生活アンケート」として行った。アンケート実施に際しては、本学の ICT サービス部門に依頼して、Cerezo にコースを追加していただいた。

1. 学生生活アンケート調査の目的

学生にとっては大学において学修や研究活動に取り組むことが本来の使命であるが、大学生は一市民でもあり、日常生活を送っている。そして、大学内で学修・研究を行うために通学し、食事をし、休憩したり、サークル活動に参加したりといった、いわゆる学生生活を過ごしている。これら学生生活全般に対する支援が学生委員会の役割である。そこで、学生生活に関するアンケートを行って、実態を正確に把握し、その結果を、学生が充実した学生生活を送ることができるために役立てることが本アンケートの目的である。

2. 学生生活アンケート調査の項目

学生生活アンケート調査の調査項目は、原則として定点観測をしたいので、前回実施した項目を引き継いだが、以下のように変更した部分もある。

1. ジェンダーに関する考え方の変化を考慮して、「性別」を問う質問を削除した。
2. 学修時間には「遠隔授業」も含むことを明記した。
3. 喫煙者数が前回の調査で 6%未満であり、今後も喫煙者が減ることは確実であると考えられるので、喫煙習慣を問う質問は削除した。ただし、少数ではあるが喫煙者はいるので、喫煙場所に関する質問は残した。
4. 新型コロナ感染症に関する質問を 5 項目設けた。

以上の方針にしたがって、分類としては、A 回答者の情報(質問 1 ～質問 4)、B 回答者の考え方と思い(質問 5～質問 7)、C 回答者の行動と活動(質問 8～質問 13)、D 回答者の経済的状況(質問 14～質問 19)、E 回答者の時間の使い方(質問 20～質問 26)、F 回答者の健康と安全(質問 27～質問 33)、G 回答者の人間関係(質問 34～質問 35)、H 新型コロナ感染症について(質問 36～質問 40)、及び I 大学をよくするための回答者からの提案(質問 41～質問 44)という 9 分類で合計 44 項目の質問を設定した。

3. 学生生活アンケート調査の実施方法

調査は、令和 2(2020)年度後期に本学に在籍する学部学生 3848 名と科目等履修生, 交換留学生、研究生合わせて 15 名を対象者として、令和 2 年 12 月 11 日～令和 3 年 1 月 18 日の間に調査を実施した。回答は本学が学修支援ソフトウェアとして導入している Cerezo のアンケート機能を利用してネットワーク上で実施した。アンケートの「リマインダー」機能により対象者全員に回答を依頼し、かつ、受付期間中、未回答者には何回か「リマインダー」を送り、回答提出をお願いした。結果として、回答者総数は 1267 であり、回答率は 32.8%であった。

4. アンケート集計方法

学生生活アンケート調査の回答結果は、学生委員会研究部門小委員会メンバー6 名で分担して集計した。Cerezo の回答データから学籍番号や氏名などの個人データを削除したものを、表計算ソフトで質問ごとに集計した。複数の選択肢を選ぶことができる質問では、個々の選択肢の合計数だけでなく、選択のパターンも集計した。そのため、結果を示す集計表が、前回よりも増えている。

学年や学部との相関関係を考察するためのクロス集計は全体としては、前回同様、今回もしていないが、学年(年齢)が関係する「飲酒の習慣」についてのみ行った。

自由記述欄は、要望(質問 42)と提案(質問 44)のほかに、新型コロナ感染症に関する質問それぞれにも設定した。「スクールバス」や「教室」などのキーワードで分類したが、ひとつの回答に複数の意見等が記載されている場合については、内容ごとに分割することはせずに、複数の分類箇所に重複して現れるようにした。1 名が複数の意見を述べているという事実を尊重するほうがよいと考えるためである。特定の個人、団体や部署を非難するような内容が含まれていると判断できる場合は、できるだけ、特定できないように修正した。また、回答文に明らかな誤字・脱字等がある場合は、それを修正して本報告書末尾に付録として添付した。

5. アンケート集計結果

A. 回答者の情報

上で述べたように、クロス集計は一部のみ行ったが、学生生活アンケート調査における基本的な項目として、調査項目 A では、回答者の情報である学部、学年、通学手段、及び 住居の形態に関する情報を収集した。

質問 1　あなたの所属する学部を教えてください。

回答者が所属する学部の割合は、表 1 に示すように経済学部と生命工学部が約 25%で最も高く、次いで薬学部、工学部が続く。また、各学部の在籍学生数を基にした回答率を表 A に示した。学部別の回答率は生命工学部が 41.7%で最も高く、工学部、薬学部、経済学部、人間文化学部の順であった。

表 1 回答者の所属学部

学部	回答数	割合
経済	316	24.9%
人間文化	152	12.0%
工	241	19.0%
生命工	309	24.4%
薬	249	19.7%
合計	1267	100.0%

表 A 学部別回答率

学部	回答数	在籍者数	割合
経済	316	1046	30.2%
人間文化	152	604	25.2%
工	241	700	34.4%
生命工	309	741	41.7%
薬	249	757	32.9%
合計	1267	3848	32.9%

質問 2 あなたの学年を教えてください。

回答者の学年分布は、表 2 に示すように 1 年次生が 35.2%で最も多く、次いで 3 年次生、4 年次生と続く。薬学部学生の 5 年次生及び 6 年次生の回答率は著しく低かった。各学年の在籍学生数を基にした学年別回答率を表 B に示した。学年別の回答率は1年次生が最も高く半数近くが回答している。3 年次生は 1/3 弱で、2, 4, 5, 年次生が 1/4 強であった。

表 2 回答者の所属学年

	回答数	割合
1 年次生	446	35.2%
2 年次生	255	20.1%
3 年次生	279	22.0%
4 年次生	228	18.0%
5 年次生	36	2.8%
6 年次生	23	1.8%
合計	1267	100.0%

表 B 学年別回答率

	回答数	在籍者数	割合
1 年次生	446	921	48.4%
2 年次生	255	915	27.9%
3 年次生	279	869	32.1%
4 年次生	228	860	26.5%
5 年次生	36	143	25.2%
6 年次生	23	140	16.4%
合計	1267	3848	32.9%

質問 3　あなたの通学の交通手段を教えてください。ただし、〔1.徒歩〕は、徒歩のみで大学まで通学する人が該当します。最寄りの駅やバス停まで徒歩で行く人等は該当しません。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

表 3-1 通学の交通手段

	回答数	割合
徒歩	56	4.4%
自転車	296	23.4%
原付・バイク	135	10.7%
自動車	316	24.9%
公共バス	73	5.8%
スクールバス	798	63.0%
電車	426	33.6%

表 3-2 通学の交通手段（詳細）

	回答数	割合
スクールバス	300	23.7%
自動車	214	16.9%
自転車+電車+スクールバス	155	12.2%
電車+スクールバス	137	10.8%
原付・バイク	72	5.7%
自転車+スクールバス	70	5.5%
徒歩	56	4.4%
自動車+電車+スクールバス	28	2.2%
自転車	27	2.1%
その他	203	16.0%
無回答	5	0.4%
合計	1267	100.0%

この質問では、7 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、表 3-1 で割合を計算する際の分母は回答総数の 1267 である。表 3-1 からは、ほぼ 2/3 の学生がスクールバスを利用していることがわかる。さらに、スクールバスのみを利用する学生も表 3-2 から 1/4 弱いるので、松永駅近辺で暮らしている学生が多いことが読み取れる。

質問 4　あなたの住居について教えてください。

本学学生の出身地は、広島・岡山県内が多く、「自宅」から通学する学生の割合が高い。自宅あるいは下宿という住居の形態により、課外活動、アルバイトあるいは学習時間等への影響を調査 するために、本調査項目を設けている。

表 4 住居の形態

	回答数	割合
自宅（親類宅を含む）	722	57.0%
下宿（賃貸アパート等）	486	38.4%
本学の学生寮	52	4.1%
その他	0	0.0%
無回答	7	0.6%
合計	1267	100.0%

B. 回答者の考え方と思い

この調査項目では、学生が学生生活に期待していることを把握するために、本学学生の価値観や思いを調査した。

質問 5　大学生活において一番大切にしているものは何ですか。

本学学生が最も大切にしていることを尋ねる本項目では、表 5 に示すように、約 55%の学生が「大学での学修や研究」を最も大切なことと考えている。次いで「友人関係」、「趣味や娯楽」が続いている。学生本来の目的の認識が高い学生が多いことが示された。

表 5 一番大切にしているもの

	回答数	割合
大学での学修や研究	702	55.4%
クラブやサークル、学友	47	3.7%
友人関係	253	20.0%
趣味や娯楽	130	10.3%
アルバイト	24	1.9%
その他	27	2.1%
特にない	78	6.2%
無回答	6	0.5%
合計	1267	100.0%

質問 6 大学生活において、質問 5 で回答したものの次に大切にしているものは何ですか。

本項目は質問 5 との関連項目である。質問 5 では二番目及び三番目であった「友人関係」及び「趣味や娯楽」が、表 6 ではそれぞれ一番目及び二番目となっていた。質問 5 の一番目に大切にしていること、及び質問 6 の二番目に大切にしていることを合わせると約 8 割の学生が「大学での学修や研究」「友人関係」「趣味や娯楽」を大切にしていることが示された。

表 6 二番目に大切にしているもの

	回答数	割合
大学での学修や研究	241	19.0%
クラブやサークル、学友会	95	7.5%
友人関係	457	36.1%
趣味や娯楽	242	19.1%
アルバイト	105	8.3%
特にない	113	8.9%
無回答	14	1.1%
合計	1267	100.0%

質問 7　授業以外の学生生活は充実していますか。

質問 5 では、最も大切にしていることとして約 55%の学生が「大学での学修や研究」を挙げている。質問 6 では二番目に大切にしていることとして 5 割以上の学生が「友人関係」または「趣味や娯楽」を挙げている。本項目ではそれらの充実度を訪ねている。「充実している」「やや充実している」と回答した学生数を合わせると 68.7%に達しており、授業以外の学生生活はほぼ充実していると判断された。授業等の学修の充実度については「学生による授業評価アンケート」で調査されており、本調査では実施していない。おそらくコロナの影響により、過去数年よりもわずかに低くなっていると思われる。

表 7 学生生活は充実しているか

	回答数	割合
とても充実している	281	22.2%
やや充実している	589	46.5%
あまり充実していない	247	19.5%
全く充実していない	56	4.4%
考えたことはない	87	6.9%
無回答	7	0.6%
合計	1267	100.0%

C. 回答者の行動と活動

本学学生のうち約 7 割が「学生生活はとても、または、やや充実している」と回答した。その内容を知るべく、大学行事やサークル活動への参加状況やアルバイト経験などについて調査した。

質問 8　三蔵祭、学長杯争奪スポーツ大会、本学オープンキャンパスなどの大学行事に参加したことがありますか。大学や学部の行事なら何でも結構です。

表 8「大学行事への参加状況」では、主催者として「積極的」に参加した学生は 28.2%、見物や応援の参加者として「消極的」に参加した学生は 27.0%と合わせると 53.2%になるが、参加したことがない学生は 44.0%と高水準になっている。学内行事に対する興味・関心が、大きく二分している状況を見てとることができる。

表 8 大学行事への参加

	回答数	割合
主催者側として積極的に参加	357	28.2%
見物や応援等で参加したこと	342	27.0%
参加したことがない	558	44.0%
無回答	10	0.8%
合計	1267	100.0%

質問９．学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

表９「学内外での活動状況」では、スポーツ系と文化系のクラブ活動に従事する学生は全体で27.9%を占めており、学外の活動が8.1%であることと比べると学内で活動する学生がそれを大きく引き離していることがわかる。しかしながら、62.6%の学生が学内外を問わずクラブ活動に従事しておらず、活動的な学生は少数にとどまっている。

表 9 学内外での活動への参加

	回答数	割合
学内スポーツ系のクラブ等	192	15.2%
学内文化系のクラブ等	161	12.7%
学外スポーツ系のクラブ等	37	2.9%
学外文化系のクラブ等	18	1.4%
複数のクラブなど	48	3.8%
クラブ等に参加していない	793	62.6%
無回答	18	1.4%
合計	1267	100.0%

質問１０．大学入学後に“アルバイトをしている”、または“アルバイトをした”ことがありますか。（下記の選択肢から選んでください。）

表10「大学入学後のアルバイト経験」では、学生の8割弱が何らかのアルバイトを経験していることがわかる。その多くが販売等のアルバイトもしくは飲食店でのアルバイトに従事しており、コンビニやファミレス、居酒屋などがアルバイト先として選択されている状況にあることを推察できる。他方、アルバイト経験のない学生は20.3%と比較的少ない。

表 10 大学入学後のアルバイト経験

	回答数	割合
家庭教師、学習塾講師等	95	7.5%
販売等	312	24.6%
飲食店	400	31.6%
軽作業	61	4.8%
重労働	21	1.7%
1～5 以外のアルバイト	109	8.6%
したことはない	257	20.3%
無回答	12	0.9%
合計	1267	100.0%

質問１１．あなたがアルバイトに従事する主な目的は何ですか。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

表10と関連して、表11ではアルバイトの目的をさらに詳細に見ていく。学生の多くは、その目的として「趣味や娯楽の資金にするため」「欲しい物を購入するため」「社会経験として」を挙げており、余暇の時間を充実させるための資金を求めてアルバイトに従事している様子が推察できる。他方、「学費」「生活費」のためにアルバイトしている学生も一定数おり、収入が途絶えると学業などに影響を及ぼす可能性を抱えている様子が推察できる。

表 11-1 アルバイトの目的（累計）

	回答数	割合
学費の一部	236	18.6%
生活費	456	36.0%
サークル活動	36	2.8%
趣味や娯楽の資金	617	48.7%
旅行の資金	239	18.9%
欲しい物	522	41.2%
社会経験	573	45.2%
その他	73	5.8%
したことはない	228	18.0%

表 11-2 アルバイトの目的(単一)

	回答	割合
1.学費の一部を賄うため	26	2.1%
2.生活費を賄うため	91	7.2%
3.サークル活動のため	4	0.3%
4.趣味や娯楽の資金にするた	77	6.1%
5.旅行の資金にするため	4	0.3%
6.欲しい物を購入するため	21	1.7%
7.社会経験として	81	6.4%
8.その他	16	1.3%
9.アルバイトをしたことはな	224	17.7%
複数種類のアルバイトをした	703	55.5%
無回答	20	1.6%
合計	1267	100.0

表 11-3 アルバイトの目的（複数）

	回答数	割合
4,5,6,7	77	6.1%
2,4,5,6,7	47	3.7%
4,6,7	46	3.6%
2,4,6,7	43	3.4%
4,6	28	2.2%
2,4,6	28	2.2%
1,2	25	2.0%
4,7	25	2.0%

表 11-4 アルバイトの目的（種類）

種類数	回答数	割合
0	224	17.7%
1	320	25.3%
2	178	14.0%
3	190	15.0%
4	200	15.8%
5	104	8.2%
6	27	2.1%
7	4	0.3%
8	0	0.0%
無回答	20	1.6%
合計	1267	100.0%

質問１２．福山大学キャンパスの中で一番よく滞在している場所はどこですか。

表 12 は「学内で一番よく滞在する場所」を調査した結果だが、授業を受けることから明らかなように教室が最も多い 53.7%になっている。一方、それ以外の場所は、研究室・ゼミ室が 18.1%と次点ではあるが大きく差をつけられており、その後に図書館、一号館学生ホールと続くがいずれも 10%を大きく下回っており、学生の多くが学内施設を十分に利用しているとは言えない状況が把握できる。

表 12 学内で一番よく滞在する場所

	回答数	割合
教室	680	53.7%
研究室・ゼミ室	229	18.1%
図書館	75	5.9%
1 号館学生ホール	80	6.3%
サークルの練習場所等	47	3.7%
学生食堂	44	3.5%
喫茶室（Fu's Café）	1	0.1%
学内のフリースペース	65	5.1%
その他	35	2.8%
無回答	11	0.9%
合計	1267	100.0%

質問１３．福山大学キャンパスの中で二番目によく滞在している場所はどこですか。

表 13 では、表 12 に引き続き「学内で二番目に滞在する場所」を調査した結果だが、引き続き教室が 20.5%と最も高く、教室以外の場所に滞在する学生が多くない様子が推察される。一方、教室の次に滞在する場所として、「一号館学生ホール」が 11.0%、「学生食堂」が 19.9%、「学内のフリースペース」が 16.7%と多少利用されている様子がわかる。

表 13 学内で二番目に滞在する場所

	回答数	割合
教室	260	20.5%
研究室・ゼミ室	107	8.4%
図書館	110	8.7%
1 号館学生ホール	140	11.0%
サークルの練習場所等	53	4.2%
学生食堂	252	19.9%
喫茶室（Fu's Café）	12	0.9%
学内のフリースペース	212	16.7%
その他	100	7.9%
無回答	21	1.7%
合計	1267	100.0%

D. 回答者の経済状況

前回と同様に，経済状況についても調査した。今回は，新型コロナ感染症の影響があることも考えられるので、分類項目 H 問 39 の回答と合わせて見ていただきたい。

質問１４ 1 か月の収入の中で、一番多い収入は何ですか。

表 14 と表 15 を合わせて見ると、アルバイトは 6 割以上の学生がしていることになる。奨学金については、全体の 4 割程度が受給していると思われる。また、家庭からの給付はあるが、それ以外の収入もかなりある現状が見て取れる。

表 14 1 か月の収入で一番多い収入

	回答数	割合
家庭からの給付	400	31.6%
奨学金	277	21.9%
アルバイト	538	42.5%
その他の収入	35	2.8%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問１５ 1 か月の収入の中で、二番目に多い収入は何ですか。

表 15 1 か月の収入で二番目に多い収入

	回答数	割合
家庭からの給付	269	21.2%
奨学金	219	17.3%
アルバイト	250	19.7%
その他の収入	36	2.8%
質問 15 の回答のみ	473	37.3%
無回答	20	1.6%
合計	1267	100.0%

質問１６ 1 か月の収入はどれくらいですか。家庭からの給付を含めて回答してください。

この質問に対しては、自宅通学なのかどうかで解釈が分かれると思われる。2 万円未満という回答が 1 割強あるが、表 4 によると、「自宅又は親類宅」が 6 割弱であることと、「回答したくない」が 2 割以上あるので、援助が必要かどうかを判断することは難しい。なお，5 万円から 10 万円の間の分類が抜けていたので，表 15 は完全なものではないことをお断りする.

表 15 1 か月の収入額

	回答数	割合
2 万円未満	149	11.8%
2 万円以上～5 万円未満	544	42.9%
10 万円以上～15 万円未満	225	17.8%
15 万円以上	24	1.9%
回答したくない	301	23.8%
無回答	24	1.9%
合計	1267	100.0%

質問１７ 1 か月の支出の中で、一番多い支出は何の費用ですか。

支出についても、表 17 と表 18 を合わせて見ると、いわゆる生活必需品の支出が多いことがわかる。それ以外では、娯楽費がかなりの割合を占めているようである。携帯電話などの通信費の割合はそれほど高くない。

表 17 1か月の支出で一番多い支出

	回答数	割合
住居費	265	20.9%
食事や衣類等の購入	494	39.0%
修学に必要な経費	72	5.7%
サークル等の活動	5	0.4%
公共料金	28	2.2%
通信費（携帯電話等）	34	2.7%
娯楽費（交際費を含む）	292	23.0%
その他の経費	60	4.7%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問１８ １か月の支出の中で、二番目に多い支出は何の費用ですか。

表 18 1か月の支出で二番目に多い支出

	回答数	割合
住居費	96	7.6%
食事や衣類等の購入	429	33.9%
修学に必要な経費	66	5.2%
サークル等の活動	17	1.3%
公共料金	99	7.8%
通信費（携帯電話等）	90	7.1%
娯楽費（交際費を含む）	317	25.0%
その他の経費	130	10.3%
無回答	23	1.8%
合計	1267	100.0%

質問１９ あなたが所有する、または専ら占有できるものがありますか。(下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。)

携帯電話が多いのは当然であるが、86.2%という値は、実感よりはやや低いと思われる．スマートフォンを含むと断るべきだったかもしれない。タブレットと含む「ノートパソコン」がほぼ 3/4 であるのは、BYOD が浸透してきた証と考えられる。デスクトップパソコンと合わせて約 9 割であるが、残りは占有でなく、家族との共有のパソコン類を使用していると解釈してもよいであろうか？

表 19-1 所有して占有できるもの(累計)

	回答数	割合
自動車	269	21.2%
オートバイ(原付等を含む)	182	14.4%
自転車	757	59.7%
携帯電話	1092	86.2%
ルームエアコン	504	39.8%
デスクトップパソコン	207	16.3%
ノートパソコン等	931	73.5%
テレビ	524	41.4%
携帯音楽プレーヤー	271	21.4%

表 19-2 を見ると、選択肢のうち複数を所有している学生が圧倒的に多いが、一種類のみ所有している学生も一定数いることがわかる。

表 19-2 所有して占有できるもの(単一)

	回答数	割合
1. 自動車	26	2.1%
2. オートバイ(原付等を含む)	23	1.8%
3. 自転車	30	2.4%
4. 携帯電話	47	3.7%
5. ルームエアコン	1	0.1%
6. デスクトップパソコン	2	0.2%
7. ノートパソコン等	14	1.1%
8. テレビ	2	0.2%
9. 携帯音楽プレーヤー	2	0.2%
複数種類を持っている	1097	86.6%
無回答	23	1.8%
合計	1267	100.0%

複数所有のパターンでは、自転車は別として、携帯電話とノートパソコン等が多いことがわかる。また、携帯電話(おそらくはスマートフォン)のみ所有しているという回答もわずかであるがあった。

表 19-3 所有物（複数）

パターン	回答数	割合
3,4,7	104	8.2%
3,4,5,7,8	102	8.1%
4,7	53	4.2%
3,4,7,8	48	3.8%
4	47	3.7%
3,4,5,7	40	3.2%
3,4,5,7,8,9	37	2.9%
3,4	32	2.5%
3	30	2.4%
3,4,7,9	29	2.3%
1	26	2.1%
4,7,8	26	2.1%

表 19-4 を見ると、複数所有の種類数では、3 ないし 4 が中央値と考えられる。7 種類以上所有という回答も 5%程度あった。

表 19-4 所有物（種類数）

種類数	回答数	割合
1	147	11.6%
2	129	10.2%
3	266	21.0%
4	269	21.2%
5	238	18.8%
6	127	10.0%
7	45	3.6%
8	16	1.3%
9	7	0.6%
無回答	23	1.8%
合計	1267	100.0%

E. 回答者の時間の使い方

ここでは、生活における活動の種類による時間の使い方がどうなっているのかを調査した。学生の本分である学修とそれに必要な通学や予習・復習とそれ以外のサークル活動やアルバイトなどの割合を知ることは、学生指導の重要な情報であると考えられる。

質問２０ 片道の通学時間はどれくらいかかりますか。

片道の通学時間（表 20）については、30 分未満と回答した者が 41.3%、30 分以上～1 時間未満と回答した者が 30.1%であり、回答者数全体の 70%程度が片道の通学時間が 1 時間以内で収まっていた。一方で、少数ではあるが 2 時間以上かかると回答した者も 2.1%程度おり、授業の受講状況やサークル活動等の加入状況によっては、早朝に自宅を出発し帰宅も夜遅くなる可能性が考えられるため、自宅学習時間の確保をはじめ、食事時間や休養時間が必要量取れているか懸念される。

表 20 片道の通学時間

	回答数	割合
30 分未満	523	41.3%
30 分以上 1 時間未満	382	30.1%
1 時間以上 1 時間 30 分未満	239	18.9%
1 時間 30 分以上 2 時間未満	80	6.3%
2 時間以上	27	2.1%
無回答	16	1.3%
合計	1267	100.0%

質問２１ 平日の帰宅時刻は何時くらいですか。曜日等により異なるかもしれませんが、いちばん多い時刻を教えてください。

平日の帰宅時刻について、一番多い時刻を尋ねたところ(表 21)、回答者の 70.6%が午後 7 時までに帰宅していると答えた。一方で、午後 9 時以降に帰宅していると回答している者も 10.8%いた。

表 21 平日の帰宅時刻

	回答数	割合
概ね午後 5 時まで	399	31.5%
午後 5 時から午後 7 時の間	495	39.1%
午後 7 時から午後 9 時の間	218	17.2%
午後 9 時から午後 11 時の間	115	9.1%
午後 11 時から午前 1 時の間	21	1.7%
無回答	16	1.3%
合計	1267	100.0%

質問２２ 授業期間中、平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業（遠隔授業を含む）・学生実験等

の課題・予習・復習に充てていますか。

表 22 は、1 週間の授業以外の学習時間について質問した結果である。最も多かったのは「1 時間以上5時間未満」と答えた者が45.2%であった。日本学生支援機構が実施した平成 30 年度学生生活調査結果の結果によると、昼間部の大学に通う学生の、大学の授業の予習や復習に充てられている時間は、「1～5時間」が半数以上を占める結果となっていたが、本学での調査においても同様の結果となった。ただし、日本学生支援機構の調査結果はコロナ禍前の結果であるため、コロナ禍後の調査となる令和2年度の結果とも比較する必要がある。

表 22　1週間の授業以外の学習時間

	回答数	割合
1 時間未満	179	14.1%
1 時間以上 5 時間未満	573	45.2%
5 時間以上 10 時間未満	232	18.3%
10 時間以上 15 時間未満	114	9.0%
15 時間以上 20 時間未満	63	5.0%
20 時間以上	87	6.9%
無回答	19	1.5%
合計	1267	100.0%

質問２３　学内外のクラブやサークル活動には、平均的に 1 週間に何時間くらいを充てていますか。

1 週間のサークル等の活動時間に関する調査結果を表 23 に示す。最も多かったのは「クラブ等に所属していない」であり、62.7%が該当した。また、「クラブ等に所属しているが、活動実績はほとんどない」と回答した者も 15.3%あり、合計すると 80%弱の学生がサークルやクラブでの活動を行っていないことが明らかとなった。今年度は新型コロナウィルス感染予防としてサークル活動・クラブ活動の自粛要請が長引いたことから、このような結果になったと考えられる。

表 23　1週間のサークル等の活動時間

	回答数	割合
30 時間以上	11	0.9%
20 時間から 29 時間	16	1.3%
10 時間から 19 時間	45	3.6%
1 時間から 9 時間	187	14.8%
クラブ等に所属しているが、活動実績はほとんどない	194	15.3%
クラブ等に所属していない	795	62.7%
無回答	19	1.5%
合計	1267	100.0%

質問２４　Facebook や Line などの SNS(ソーシャル・ネットワークサービス) やインターネットの利用に1日あたりどれくらいの時間を充てていますか。

表 24 に「1 日に SNS 等に費やす時間」についての結果を示す。一番多かった回答は「1 時間以上 2 時間未満」で 29.5%であったが、1 時間未満が 24.5%、2 時間以上 3 時間未満が 16.9%程度、3 時間以上が 25.5%程度と、利用時間については分散傾向が見られた。

表 24 1 日に SNS 等に費やす時間

	回答数	割合
使用していない	28	2.2%
1 時間未満	310	24.5%
1 時間以上 2 時間未満	374	29.5%
2 時間以上 3 時間未満	214	16.9%
3 時間以上	323	25.5%
無回答	18	1.4%
合計	1267	100.0%

質問２５．1週間にどれくらいの時間をスポーツや運動に充てていますか。

表 25 は、1 週間にスポーツ等に費やす時間についてまとめたものである。「ほとんど運動はしない」または「1 時間未満」と回答した者が合わせて 69.2%いた。今年度は新型コロナウィルス感染予防として外出自粛や自宅待機を余儀なくされていたので、その影響もあるかと考えられる。

表 25 1 週間にスポーツ等に費やす時間

	回答数	割合
ほとんど運動はしない。	580	45.8%
1 時間未満	297	23.4%
1 時間以上 2 時間未満	170	13.4%
2 時間以上 3 時間未満	73	5.8%
3 時間以上	127	10.0%
無回答	20	1.6%
合計	1267	100.0%

質問２６　アルバイトに従事している時間は何時間ですか。（下記の選択肢から２つまで選んでください。）

表 26-1 および表 26-2 アルバイト従事時間の結果が示されている。なお、割合の分母は有効回答数の合計である 1228 であり、平日、土・日・祝、どちらもまたは片方に答えない場合があるので、それぞれの和は 100%より小さくなっている。

まず平日のアルバイト従事状況であるが、最も多かった回答は「していない」であり 41.1%であった。平日にアルバイトに従事している者の中で最も多かった回答は「10 時間以上～20 時間未満」であり、単純に一日換算すると 2 時間以上～4 時間未満のアルバイトに従事している学生が多いと考えられた。よって、4 割程度の学生は平日にアルバイトを行っておらず、アルバイト従事している学生も週 20 時間未満以内に収めていた。土・日・祝日については「5 時間以上～10 時間未満」と回答した者が 18.3%と多く、次いで「していない」が 15.1%であった。

表 26-2 にアルバイト従事パターン別の結果を示す。平日、土・日・祝、どちらもまたは片方に答えない場合があるので詳細な考察は難しいが、「平日も土・日・祝もしていない」と回答した者（＝確実にアルバイト従事していない）が 10.7%、「土・日・祝はしていない」または「平日はしていない」のみ回答した者もアルバイト非従事者である可能性があると考えた場合、その合計は 37.7%であった。一方、平日が 10 時間以上～20 時間未満、土日祝に 10 時間～15 時間従事していると答えた者もいた（3%）。全国的にはアルバイトに従事する学生が8割程度いるとの報告もあるため（日本学生支援機構平成 30 年度学生生活調査結果）、それと比較するとやや少ない印象を受ける。ここにもコロナ禍の影響がある可能性が考えられる。

表 26-1 アルバイトに従事する時間 その１

		回答数	割合
平日	1. していない	505	41.1%
	2. 10 時間未満	253	20.6%
	3. 10 時間～20 時間	315	25.7%
	4. 20 時間～30 時間	84	6.8%
	5. 30 時間以上	25	2.0%
土・日・祝	6. していない	186	15.1%
	7. 0～5 時間未満	110	9.0%
	8. 5 時間～10 時間	225	18.3%
	9. 10 時間～15 時間	112	9.1%
	10. 15 時間以上	52	4.2%

表 26-2 アルバイト従事時間 その２

パターン	回答数	割合
1	288	23.5%
3	134	10.9%
1, 6	132	10.7%
3, 8	75	6.1%
2	71	5.8%
2, 8	61	5.0%
8	53	4.3%
2, 9	47	3.8%
6	43	3.5%
4	41	3.3%
2, 7	40	3.3%
3, 9	37	3.0%
3, 7	30	2.4%
それ以外	153	12.5%
無回答	23	1.9%
合計	1228	100.0%

F. 回答者の健康と安全

本学では、毎年 4 月と 11 月に健康診断を実施している。所見のある学生の割合は多くはないが、一定の割合で存在し、健康指導を実施している。質問 27~33 では、それぞれの学生の生活習慣、心身の健康を維持する方法について調査した。

質問２７ あなたの現在の健康状態について教えてください。

本質問では、各学生の健康に関する自覚症状または疾病の状況を尋ねた。その結果、82.6%の学生が特に問題を感じていないことがわかった。一方、0.6%の学生が「重い症状があり、治療を受けている」と回答しており、学生の健康状態に適切に配慮する必要がある。

表 27 健康状態

	回答数	割合
特に問題を感じていない	1047	82.6%
軽い問題を抱えているが治療を受けるほどではない	133	10.5%
軽い問題があり治療を受けている	59	4.7%
やや重い病状があるが治療を受けるほどではない	3	0.2%
重い病状があり治療を受けている	7	0.6%
無回答	18	1.4%
合計	1267	100.0%

質問２８ キャンパス内での喫煙についてあなたの意見を教えてください。

喫煙は、喫煙者の健康を損なうだけでなく、非喫煙者の受動喫煙を引き起こすため、問題となっている。本質問では、学生の喫煙マナーに対する考え方を尋ねた。その結果、「本学の現状を維持する」でよいと思う学生が 32.1%、「完全分煙を実現する」という学生が 28.5%、そして「完全禁煙とする」が 27.7%であった。キャンパス内の喫煙環境を検討する上で重要なデータである。

表 28 キャンパス内での喫煙への意見

	回答数	割合
自由に喫煙できるのがよい	14	1.1%
喫煙場所を増やす	59	4.7%
現状を維持する	407	32.1%
喫煙場所を減らす	51	4.0%
完全分煙を実現する	361	28.5%
完全禁煙とする	351	27.7%
無回答	24	1.9%
合計	1267	100.0%

質問２９ 飲酒の習慣はありますか。1 週間にお酒を飲む日数を教えてください。

飲酒習慣は健康に影響を与える要因の一つである。また、アルコールへの過度の依存は健康問題だけでなく、社会問題にもなりうる。本質問では学生の飲酒習慣（1 週間あたりのお酒を飲む日数）について調査した。80.5%の学生が「ほとんど飲まない」と回答している一方、4.6%の学生が 1 週間に 3 日以上飲酒をしていると回答している。在学生には未成年もいることから、未成年は飲酒をしないことや 20 歳以上で飲酒をする場合は適度に飲酒をすることを呼びかけることが重要である。

表 29-1 飲酒習慣（全学年）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	1020	80.5%
1 日から 2 日は飲む	164	12.9%
3 日から 4 日は飲む	37	2.9%
5 日から 6 日は飲む	12	0.9%
ほぼ毎日飲む	10	0.8%
無回答	24	1.9%
合計	1267	100.0%

飲酒に関しては、学年別のデータも以下に示す。1 年次生にも、少数であるが、飲酒習慣がある学生がみられる。1 年次生でも年齢が 20 歳未満とは限らないことを考慮しても、アンケートを実施した 1 年次後期の時点で飲酒の習慣を持っていることはあまり好ましいことではない。学年が上がるにつれて、飲酒習慣を持つ学生の割合は増す傾向にあるので、上で述べたように、過度の飲酒は

避けるように呼び掛けることが重要である。

表 29-2 飲酒習慣（1 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	421	94.4%
1 日から 2 日は飲む	4	0.9%
3 日から 4 日は飲む	4	0.9%
5 日から 6 日は飲む	4	0.9%
ほぼ毎日飲む	2	0.4%
無回答	11	2.5%
合計	446	100.0%

表 29-3 飲酒習慣（2 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	189	74.1%
1 日から 2 日は飲む	45	17.6%
3 日から 4 日は飲む	14	5.5%
5 日から 6 日は飲む	2	0.8%
ほぼ毎日飲む	1	0.4%
無回答	4	1.6%
合計	255	100.0%

表 29-4 飲酒習慣（3 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	198	71.0%
1 日から 2 日は飲む	61	21.9%
3 日から 4 日は飲む	11	3.9%
5 日から 6 日は飲む	3	1.1%
ほぼ毎日飲む	2	0.7%
無回答	4	1.4%
合計	279	100.0%

表 29-5 飲酒習慣（4 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	167	73.2%
1 日から 2 日は飲む	45	19.7%
3 日から 4 日は飲む	7	3.1%
5 日から 6 日は飲む	3	1.3%
ほぼ毎日飲む	4	1.8%
無回答	2	0.9%
合計	228	100.0%

表 29-6 飲酒習慣（5 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	28	77.8%
1 日から 2 日は飲む	4	11.1%
3 日から 4 日は飲む	1	2.8%
5 日から 6 日は飲む	0	0.0%
ほぼ毎日飲む	0	0.0%
無回答	3	8.3%
合計	36	100.0%

表 29-7 飲酒習慣（6 年次）

	回答数	割合
ほとんど飲まない	17	73.9%
1 日から 2 日は飲む	5	21.7%
3 日から 4 日は飲む	0	0.0%
5 日から 6 日は飲む	0	0.0%
ほぼ毎日飲む	1	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	23	100.0%

質問３０　平均の睡眠時間はどれくらいですか。

経済協力開発機構（OECD）の統計（Gender Data Portal 2019）によると、日本人の平均睡眠時間は 7 時間 22 分である。質の高い睡眠は生活習慣病や心身症を予防する上で重要であると言われており、本質問では学生の睡眠時間を調査した。その結果、「5 時間未満」が 9.7%、「6 時間くらい」が 39.6%と回答しており、49.3%の学生が日本人の平均睡眠時間より少なく、睡眠時間が不足していることが分かった。

表 30 平均の睡眠時間

	回答数	割合
5 時間未満	123	9.7%
6 時間くらい	502	39.6%
7 時間くらい	401	31.6%
8 時間くらい	176	13.9%
9 時間以上	48	3.8%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問３１　地震、水害等の大規模災害が頻発しています。地震等の大規模災害が発生したときの家

族との連絡方法を決めていますか。

阪神淡路大震災(1995 年)、東日本大震災(2011 年)、熊本地震 (2016 年)、そして 2018 年 7 月の西日本豪雨など、大規模災害が多発している。そして本学にも影響がある南海地震、東南海地震ではマグニチュード 9 の地震発生が予想されている。このような状況下、本質問では学生の危機意識を調査するために大規模災害発生時の家族との連絡方法について尋ねた。その結果、家族と連絡方法を決めている学生の割合は 21.7%と低く、危機意識が低いことが示され、実質的な安全教育を推進する必要がある。

表 31 大規模災害発生時の連絡方法

	回答数	割合
対応を相談したことがない	395	31.2%
連絡方法を決めておく必要はないと考えている	26	2.1%
連絡方法を決めておく必要があると思うが、まだ決めていない	549	43.3%
連絡方法を決めている	275	21.7%
無回答	22	1.7%
合計	1267	100.0%

質問３２ 学生生活の中で、悩みはありますか。該当する事項があれば差支えがなければ教えてください。(下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。)

本質問では、学生の悩みについて尋ねた(表 32-1: 複数回答の累計；表 32-2: パターン別)。その結果、表 32-1 に示すように、28.2%の学生が「悩みは無い」と回答したが、そのほかの学生は、将来の進路や学修など、多様な問題を抱えていることが示された。また、表 32-2 のパターン別の結果から、1 人の学生が複数の悩みを抱えている場合があることも明らかになった。なお、9 の「悩みはない」をほかの選択肢と合わせて選んだ回答が少数あるが、おそらく選択ミスと思われる.

表 32-1 悩み(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 学修のこと	511	40.3%
2. サークル活動のこと	136	10.7%
3. 将来の進路のこと	600	47.4%
4. 家庭のこと	55	4.3%
5. 経済的なこと	248	19.6%
6. 自分自身の健康のこと	123	9.7%
7. 人間関係のこと	224	17.7%
8. その他のこと	73	5.8%
9. 悩みは無い	357	28.2%

表 32-2 悩み(パターン別)

パターン	回答数	割合
9	342	27.0%
3	170	13.4%
1,3	98	7.7%
1	92	7.3%
1,3,5	44	3.5%
5	30	2.4%
1,3,7	28	2.2%
8	27	2.1%
3,5	26	2.1%
それ以外	385	30.4%
無回答	25	2.0%
合計	1267	100.0%

質問３３ 身体や心の悩みが生じた場合には、どのように対処しますか (下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。)

本質問では、身体や心の健康に関する問題への対処方法について尋ねた (複数回答可、表 33-1: 複数回答の累計；表 33-2: パターン別)。その結果、表 33-1 に示すように、友人に相談する学生が 46.2%、家族に相談する学生が 50.5%であり、親しい人に相談する学生が多かった。また表 33-2 のパターン別の結果を見てみると、友人と家族の両方に相談すると回答した学生は 20.9%である一方、「自分で考える」だけを選んだ学生も 18.7%であり、悩みが生じた場合は、1 人で抱え込まないように相談窓口に誘うことが重要である。

表 33-1 身体や心の悩みの対処（複数回答の累計）

	回答数	割合
1. 保健管理センターのスタッフに相談する	47	3.7%
2. 教員に相談する	78	6.2%
3. 友人に相談する	585	46.2%
4. 家族に相談する	640	50.5%
5. 医療機関に相談する	195	15.4%
6. 自分で考える	664	52.4%
7. その他	58	4.6%
8. わからない	84	6.6%

表 33-2 悩みの対処法（パターン別）

パターン	回答数	割合
6	237	18.7%
3,4,6	140	11.0%
3,4	126	9.9%
4	116	9.2%
3	95	7.5%
8	67	5.3%
3,6	66	5.2%
4,6	65	5.1%
5	33	2.6%
それ以外	302	23.8%
無回答	20	1.6%
合計	1267	100.0%

G. 回答者の人間関係

良好な人間関係は充実した学生生活を送る上で重要である。質問 34、35 では学生の人間関係について調査した。

質問３４ 大学での友人について教えてください。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

本質問では、友人との関係について尋ねた（複数回答可、表 34-1: 複数回答の累計；表 34-2: パターン別）。その結果、表 34-1 に示すように、46.9%の学生が何でも話せる友人がいる、64.4%の学生が趣味や話題を共有できる友人がいる、そして、59.2%の学生が試験や学習などで困ったときに相談できる友人がいると回答しており、友人関係を大切にしている学生が多いことが分かった。一方、大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い学生や孤独感を感じる学生がいることも分かった。

表 34-1 大学での友人関係（複数回答の累計）

	回答数	割合
1. 何でも話せる友人がいる	594	46.9%
2. 趣味や話題を共有できる友人がいる	816	64.4%
3. 試験や学習などで困ったときに、相談できる友人がいる	750	59.2%
4. 大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い	109	8.6%
5. 人付き合いが苦手で孤独感を感じることが多い	88	6.9%
6. ひとりでいることが好きなので、友人は少ない	172	13.6%

表 34-2 大学での友人関係（パターン別）

パターン	回答数	割合
1,2,3	323	25.5%
2,3	233	18.4%
1	164	12.9%
2	114	9.0%
3	63	5.0%
6	49	3.9%
1,2	47	3.7%
4	30	2.4%
2,3,6	25	2.0%
5	21	1.7%
それ以外	176	13.9%
無回答	22	1.7%
合計	1267	100.0%

質問３５ あなたの本学教員に対する印象について教えてください。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

本質問では、本学の教員に対する印象を尋ねた（複数回答可、表 35-1: 複数回答の累計；表 35-2: パターン別）。その結果、表 35-1 に示すよう

に、24.0%の学生が尊敬できる教員がいる、21.7%の学生が理解してくれる教員がいる、そして、35.5%の学生が困ったときに相談できる教員がいると回答している。一方、14.6%の学生が教員とのコミュニケーションの取り方が分からないと回答しており、教員から積極的にコミュニケーションをとることも大切である。

表 35-1 本学教員の印象（複数回答の累計）

	回答数	割合
1. 尊敬できる教員がいる	304	24.0%
2. 自分のことを理解してくれる教員がいる	275	21.7%
3. 困ったときに相談できる教員がいる	450	35.5%
4. 教員との関係で困っていることがある	44	3.5%
5. 教員とコミュニケーションの取り方がわからない	185	14.6%
6. 教員との関わりは特にない	421	33.2%

表 35-2 本学教員の印象（パターン別）

パターン	回答数	割合
6	368	29.0%
3	226	17.8%
1	115	9.1%
5	103	8.1%
2	90	7.1%
1,2,3	90	7.1%
2,3	59	4.7%
1,3	47	3.7%
5,6	39	3.1%
1,2	22	1.7%
4	13	1.0%
それ以外	66	5.2%
無回答	29	2.3%
合計	1267	100.0%

H. 新型コロナ感染症の影響

前回のアンケートにはなかった Covid-19 に関連する質問である。特に 1 年次生については、入学式は行われたが、その後すぐに自宅待機となり、授業が開始された後も、遠隔形式で実施される科目も多かったので、影響を知るために調査した。

質問 36 から質問 40 までの回答を見ると、新型コロナ感染症の影響は大きいと言わざるを得ない。ただ、表 36 と表 37 や表 38 を比べると、アンケート実施時点では、かなり精神的な不安は緩和されてきていることが読み取れる。しかし、経済状況については、「悪い影響がある」という回答が 3 割強あるので、引き続き何らかの支援を実施することが望ましいと考えられる。また、人間関係についても、「悪い影響がある」という回答が 2 割弱あるので、保健管理センターとも連携して支援する必要がある。表 36 から表 40 で「そのほか」では自由記述欄を設けた。それらの全文は付録を参照していただきたい。

質問３６ 前期(4 月から 9 月)の間、新型コロナウィルス感染症に関連して、精神的な不安を感じましたか？

表 36 精神的な不安（前期）

	回答数	割合
感じた	559	44.1%
感じなかった	383	30.2%
どちらともいえない	295	23.3%
そのほか	13	1.0%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問３７ 後期が始まって以降現在までに新型コロナウィルス感染症に関連して、精神的な不安を感じたことがありますか？

表 37 精神的な不安（後期）

	回答数	割合
ある	482	38.0%
ない	452	35.7%
どちらともいえない	296	23.4%
そのほか	20	1.6%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問３８ 現在、新型コロナウィルス感染症に関連して、健康面で不安がありますか？

表 38 精神的な不安(現在)

	回答数	割合
ある	124	9.8%
ない	947	74.7%
どちらともいえない	174	13.7%
そのほか	5	0.4%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問３９ 現在、新型コロナウィルス感染症に関連して、経済状況に影響はありますか？

表 39 経済状況の影響(現在)

	回答数	割合
良い影響がある	19	1.5%
悪い影響がある	387	30.5%
どちらともいえない	825	65.1%
そのほか	19	1.5%
無回答	17	1.3%
合計	1267	100.0%

質問４０ 新型コロナウィルス感染症に関連して、家族や友達などの人間関係に影響はありましたか？

表 40 人間関係への影響(現在)

	回答数	割合
良い影響がある	36	2.8%
悪い影響がある	251	19.8%
どちらともいえない	943	74.4%
そのほか	16	1.3%
無回答	21	1.7%
合計	1267	100.0%

l. 大学への要望

本学の施設・設備に対する学生の要望を知るために、質問 41 では改善を必要とする事項を施設・設備別に尋ねた。また、質問 42 では質問 41 について自由記述で具体的に回答を求めた。さらに質問 42 及び 43 では、大学行事の改善について、同様に具体的な意見を求めた。

質問４１ 福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じることを教えてください。(下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。)

質問４２ 項目４１の回答で挙げていただいた施設や設備等の改善について、それを具体的に教えてください。(200 文字程度で自由に記述してください。)

「改善を要することは思い浮かばない」という回答も半数近くあったが、3/4 を超える割合で「スクールバスの運行」に関する要望があった．具体的な内容は、付録の自由記述欄を参照してもらいたいが、学生の満足度を高めるために何らかの対策が必要であることは間違いない．そのほかの項目についても、関係部署と連携して、可能な限り改善することが望まれる．要望文を記した回答は 412 件であった．

表 41-1 大学の施設・設備の改善への提言
(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. スクールバスの運行について	983	77.6%
2. 教室の設備（音響黒板等）について	169	13.3%
3. 食堂や喫茶の設備や利用時間について	89	7.0%
4. 食堂や喫茶のメニューや価格について	137	10.8%
5. 売店やコンビニの品揃えや利用時間について	145	11.4%
6. 図書館の蔵書について	23	1.8%
7. 図書館の利用時間や利用方法について	42	3.3%
8. スポーツ関係の施設・設備について	78	6.2%
9. 休憩場所について	119	9.4%
10. その他	84	6.6%
11. 改善を要することは思い浮かばない	627	49.5%

表 41-2 大学の施設・設備の改善への提言
（パターン別）

パターン	回答数	割合
11	604	47.7%
1	135	10.7%
2	41	3.2%
10	39	3.1%
1,2	25	2.0%
8	21	1.7%
4	20	1.6%
9	20	1.6%
5	15	1.2%
1,5	13	1.0%
それ以外	294	23.2%
無回答	40	3.2%
合計	1267	100.0%

質問４３　福山大学の諸行事等で、さらに工夫を加えればもっと素晴らしい行事になると思うことがあれば教えてください。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）

質問４４　項目４３の回答で挙げていただいた行事の中から一つを選び、どのような工夫があるのか具体的に教えてください。（200 文字程度で自由に記述してください。）

この質問に対しても、「特にない」という回答が 8 割弱であったが、具体的な意見を述べた回答は 117 件であった。

表 42-1 福山大学の諸行事等への改善提案
（複数回答の累計）

	回答数	割合
1. 入学式	28	2.2%
2. 新入生合宿オリエンテーション	80	6.3%
3. 学長杯争奪競技大会	54	4.3%
4. 三蔵祭（大学祭）	145	11.4%
5. 学位授与式（在学生の立場での意見）	19	1.5%
6. 入学試験	17	1.3%
7. その他の行事	19	1.5%
8. 特にない	1004	79.2%

表 42-2 福山大学の諸行事等への改善提案
（パターン別）

パターン	回答数	割合
8	984	77.7%
4	68	5.4%
2	21	1.7%
2,4	21	1.7%
3	13	1.0%
3,4	12	0.9%
7	10	0.8%
それ以外	83	6.6%
無回答	55	4.3%
合計	1267	100.0%

その中では、大学祭に関するものが一番多かったので、新型コロナ感染症の状況にもよるが、来年度以降、このアンケートで提案された事柄を学友会と情報共有していきたい。

6. 集計結果について

まず今回の結果は、本学学生の全員ではなく、1/3 弱が回答した結果であることに留意することが必要である。その上で、全体を見渡すと、新型コロナ感染症の影響がかなりあることがわかる。分類項目 H の 5 個の質問の他に、質問 7「学生生活は充実しているか」に対する回答で、「あまり、または全く充実していない」という回答が前回の 14.3%から 23.9%に 10 ポイント近く増加している。また、質問 22「授業以外の学習時間」も「1 時間以上」の合計が 69.2%から 86.9%と増加しているのは「遠隔授業」のためと思われる。さらに、質問 8「大学行事への参加」においても、「参加したことがない」が 20.5%から 44.0%と倍以上に増えている。このように、来年度以降の学生サポートのための情報が多く得られたと考えられる。

次に提起したいのは、複数選択可能な質問(3, 9, 11, 19, 26, 32, 33, 34, 35, 41, 43)の形式についてである。例えば，質問 3 で「通学の交通手段」を問う際、「ただし、〔1．徒歩〕は、徒歩のみで大学まで通学する人が該当します。最寄りの駅やバス停まで徒歩で行く人等は該当しません。」としているにもかかわらず、複数選択に含ん

だ回答がかなり見られた。これに対しては、徒歩を含まない回答と合算することで対処できた。しかし、質問 11「アルバイトの目的」では、「アルバイトをしたことがない」を「生活費を賄うため」などとともに選択した回答が非常に少数ではあるが、存在した。これは意図的ではなく、単なる操作ミスと思われる。したがって、そういう選択ができないようにすればよい。具体的には，まず「したことがあるかどうか」を選択し、「YES」の場合にのみ、目的の項目を選択するようにすることで解決できる。次回からは、複数選択可能な質問の形式をこのような、いわば 2 段階方式に修正して実施することが望ましい。

回答に要した時間についても統計を取った。その結果，表 43 のように、10 分までが 6 割強、10 分から 20 分までと合わせると、92.6%であった。また、平均値は 11 分 30 秒であったが、1 時間以上が 17 件あり、最大値が 3 時間 46 分 29 秒であったので、中央値は 8 分 38 秒であった。1 質問あたりでは、中央値は 12 秒であることと、全体の所要時間が概ね 10 分から 20 分の間におさまっていることから、アンケート対象者が回答する際の時間面での負担はそれほど大きくないと考えてよいと思われる。

付け加えておきたいことは、回答未提出者の中に、「入力データあり」が 400 件ほどあったことである。それらをすべて提出に導くことができれば、回答率が大幅に上がり 1/2 近くになるのではあるが、それを実現することは容易ではないと思われる。

表 43 回答に要した時間の分布

10 分まで	788	62.2%
10 分から 20 分	385	30.4%
20 分から 30 分	46	3.6%
30 分から 40 分	15	1.2%
40 分から 50 分	8	0.6%
50 分から 60 分	8	0.6%
1 時間以上	17	1.3%
合計	1267	100.0%

おわりに

平成 26 年度から始まったアンケート調査であるが、学生生活全体の調査としては、今回が前回平成 30 年度に続くものである。回答率は 1/4 弱から 1/3 弱に上がったが、当然のこととして、さらに多くの学生に回答してもらうほうが良い。また、前節「集計結果について」で述べたように、回答者が意図しない複数選択のミスを防ぐような質問形式にする必要性もある。しかし、「学生生活アンケート」そのものは、継続して実施していくことによって、学生生活の充実度や大学に求められる改善点を明らかにすることに役立つことは間違いない。本調査を次回以降も発展的に実施し、貴重な情報を提供していくことを望む次第である。

最後に、Cerezo の回答データを統計処理し、本報告書を分担して執筆いただいた下記の皆さんに謝意を表します。

学生委員会 研究部門小委員会
委 員 新谷 敏朗(工学部)
委 員 坂根 洋(薬学部)
委 員 Bisset Ian James(経済学部)
委 員 丸山 友美(人間文化学部)
委 員 田辺 和康(工学部)
委 員 我如古 菜月(生命工学部)

令和 3 年 3 月 9 日

学生委員会 委員長
田中 哲郎